

## 主な内容

### CONTENTS

・ベストパートナー……………	22
・「ふれあい祭り」開催……………	20

市民総参加による  
 ひろげよう夢  
 育てよう  
 福祉のこころ

## ふれあいの集い 第2弾

# 「ふれあい祭り」開催

～障害を持っている人たちと市民のみなさんが楽しくふれあうお祭り～

11月23日(火) おかや総合福祉センターで、OVN(おかやボランティア連絡協議会)が中心となり「ふれあい祭り」を行いました。パネルディスカッション・疑似体験コーナー(アイマスク・電動車いす等)・折り紙・カラオケ・サウンドテーブルテニス・盲人用パソコン・お楽しみコーナーなどに市民のみなさん約380人が参加しました。

### パネルディスカッション 「テーマ みんな不自由人」

岡谷市身体障害者協会・花田養護学校・岡谷共同作業所・虹の家・希望の里つばさ・ひだまりの家のみなさんに自由にお話していただきました。

知的障害を持っている人が一番困ることは自分の気持ちを相手にうまく伝えられないこと、行動を理解してもらえない時があることです。地域の理解の輪がもっと広がってくれることを願っています。  
 (希望の里つばさ)

安心して地域で生活できるように「虹の家」で共同生活を送っています。今後、精神障害者のためのグループホームができたらいいなと思っています。



### 作品の展示・販売

花田養護学校・ひだまりの家・希望の里つばさ・岡谷共同作業所・虹の家等の作品を展示、販売しました。



私たちは、バザーの製品づくりは初心者ですが、ふれあい祭りに向けて一生懸命製品を作りました。(虹の家)

### 発行・編集

岡谷市社会福祉協議会  
 〒394-0081  
 岡谷市長地権現町 四丁目11番50号  
 ☎ 24-2121  
 ☎ 24-3555  
 メールアドレス  
 okasha@alto.ocn.ne.jp

## 電動車いす体験コーナー



車の免許がいらないのでどなたでもご利用いただけます。  
操作はレバーで簡単です。

## 盲人用パソコン



IT研修室には、視覚障害用のパソコンが2台あります。視覚障害者の方による実演を行いました。

## 宝ぼこ

何が当たるか  
お楽しみ!

みかんだったよ



## 身障協会員による 銭太鼓披露



## サウンドテーブルテニス



アイマスクをして、ボールの中の音に集中。高さ1.5cmのふち付卓球台でネットの下をボールをくぐらせて打ち合います。

## 折り紙コーナー



折り始めたら夢中になってしまふしぎな魅力がある折り紙。お母さんと子どもさんは折り方を教えあい、年配の方は昔話に花を咲かせながら、とても和やかな雰囲気の中で多くの方に楽しんでいただきました。

## 障害者憩いの部屋設置

シンセサイザーに合わせて歌声が流れていました。

## 相談コーナー

専門員さんが親切に対応してくれました。

## ぼんぼん釣りコーナー



何色が  
いいかな

うまく釣れる  
かな?



ポップコーンも  
おいしいね

ボランティアさん手作りの心のもった温かい豚汁を秋晴れの芝生の上でおいしくいただきました。

主催 岡谷市障害者福祉推進実行委員会



# ゼーダーの里帰り

## その1

### 北沢とも江

私のパートナーのゼーダーは、オーストラリア出身の犬です。私はかなり以前から、ゼーダーを一度オーストラリアへ里帰りさせてあげたいと思っていました。

私は自分の視力が落ちていく中で、「見えないう人」になるということに対して、強いコンプレックスを持っていました。そのコンプレックスをなくすには何かに挑戦していくしかないと考えようになりました。そして、もうひとつは、見えなくなったからといって他人と比較して自分を悲しむというような日々を送りたくないとも思っていました。盲学校に入学するに当り、通学に盲導犬が必要になったいきさつは以前にも書きましたが、本当は、犬は苦手だったのです。それでも自分を変えたいという気持ちの方が強かったので、日本盲導犬協会神奈川訓練センターの共同訓練へ行くことにしました。

1999年3月のことでした。

訓練中にこんな出来事がありました。犬に食事を与えるときは、ケージの中で、自分で食器を持って食べさせ、食べ終わったらすぐに片付けると指導されていました。その後、慣れてきたら犬に食事を与えてケージにかぎを掛けほかの用事を足していてもよいとも言われました。ある日、洗面所の掃除をしたかったのでゼーダーに食事を与え、ケージにかぎを掛けて洗面所に入りました。しばらくしてケージの戸を開けると、置いた位置に食器がないのです。ゼーダーの体を調べ、さらには敷物を外に出してケージの中を探しましたが、ステンレス製の食器は手に触れませんでした。その日はセンターの1階に生後50日の仔犬がきているので見にこないかと誘われていました。一度、1階に降り、再び部屋に戻ってケージを開けると、最初に置いた位置に食器がありました。夜、ベッドに入ってから何故食器が消えたのかを考えてみました。そしてひとつの推理が頭に浮かびました。

次の日の朝、ゼーダーに食事を与え、ケージにかぎを掛けて、また洗面所に入りました。時間を見計らって、ケージの戸を開けるとやはり食器はありませんでした。ゼーダーの体とケージの中をくまなく調べ、食器がないことを確かめると私は改めてゼーダーに向かい合いました。ゼーダーの頭から静かに手を下ろし、口元を探るとゼーダーはステンレス製の食器を口にくわえ、あごの下に上手に隠していました。私が「ア

ウト」と言うと、ゼーダーはすぐに食器を放し、うれしそうに尻尾を振りまわりました。これを知ったとき私は大変うれしくなりました。心がうきうきしました。なんてかわいいプレゼント付きの犬がやってきたのだろう。犬が苦手という気持ちには、いっぺんに吹き飛んでしまいました。

この話は、担当の訓練士さんにはしませんでした。話せばやめさせられてしまうのではないかと思ったからです。それでも、ゼーダーがよくなついていた若い訓練士さんのひとりにこの話をする、その人はニコニコして、「私も知っていましたよ。あれは、オーストラリアにいるゼーダーのパピーウオーカー（盲導犬の里親）さんが教えたのだと思いますよ。」と云ってくれました。そのとき、ゼーダーを育ててくれたパピーウオーカーさんを意識しました。

「ゼーダーのパピーウオーカーさんは、何故このような芸当をゼーダーに教えたのでしょうか。その家の習慣なのでしょうか。それともユーマアなのでしょうか。あるいは、やがて別れるゼーダーに自分たちの証を残したかったのでしょうか。又は、私へのメッセージなのでしょうか。」

様々に思い描くと、私はどうしてもその真相をパピーウオーカーさんに尋ねてみたくてたまらなくなりました。

やがて共同訓練も終わり、今日はゼーダーと一緒に我が家へ帰るといふ日の朝のことでした。以前にも、この欄で書きましたが、別棟にある

犬舎の中から数頭の犬の遠吠えが聞こえてきました。盲導犬でも遠吠えをするのだろうかと思っ  
て聞いてみると私の部屋のケージの中からゼー  
ダーが仲間の声に応えるかのように遠吠えを  
始めました。それはまるで盲導犬たちのお別れ  
の儀式のように思われました。ゼーダーは遠  
いオーストラリアから来て、今日また私だけを  
頼りに見知らぬ土地へ旅立とうとしているので  
す。そんなゼーダーの身の上を思うとなんだか  
熱いものが込み上げてきました。ゼーダーをケ  
ージから出して、その体をずっとさすりながら  
私は考えました。「いつか必ずゼーダーの辿っ  
て来た道を、私も一緒に辿ろう」と。そのため  
にも働きたいと思うようになりました。

あれから、5年の月日が経ちました。盲学校  
での3年間、苦楽をともにしたゼーダーのあご  
の下には卒業時に、すでに白いものが混じって  
いました。鍼灸マッサージ師の国家試験にも受  
かったので、私はすぐに自宅で働き始めました。  
私には、ゼーダーと一緒にオーストラリアへ行  
くという夢がありましたので仕事も楽しくでき  
ました。しかし、様々な事情でその夢を果たす  
ことはなかなかできませんでした。

2004年11月にゼーダーは8歳になります。  
犬の年齢を考えて旅行するのならこの年が一  
度しかないチャンスだと思えてなりません。思  
い切つて旅行の計画を立てることにしました。  
ところが調べてもらおうとオーストラリアとい  
う国は、人間が旅行するには簡単でも、犬と一

緒に旅行するにはとても難しい国だとい  
うことがわかりました。有袋動物保護法により動物  
検疫が厳しいのです。そして、手続きの書類は  
すべて英語で書かなくてはなりません。さらに、  
私が一番困ったことは、今までに盲導犬と一緒に  
オーストラリアへ渡ったという人がほとんど  
いないことでした。手続きの仕方を知っている  
人がいないのです。家族も友人も「とても無理  
だ」といいました。

けれども私にはあきらめきれないものがあり  
ました。オーストラリアにいるゼーダーのパピ  
ーウーカーさんへの思いです。ゼーダーは優  
しくて穏やかな性格の犬です。この犬を育てて  
くれた人たちはきっと可愛がってくれたのでし  
ょう。自分たちの育てた犬が、今は遠い異国に  
いるのです。どんな人とどんなところでどんな  
暮らしをしているのか気にしてはいないはずはな  
いのです。その人たちに元気なゼーダーの姿を  
もう一度見せてあげたいのです。そして私も自  
分の口から伝えたいのです。「ゼーダーを育て  
てくれて本当にありがとう。ゼーダーはみんな  
から愛されています。そして回りの人を幸せに  
しています。」ゼーダーに食事を与えるたびに  
繰り返される、あのご馳走さまのポーズの謎が  
私の気持ちをオーストラリアにいるパピーウ  
ーカーさんのもとへとかきたてて止みません  
でした。

## 尊い善意を

ありがとうございます

平成16年10月1日～11月30日

### ●福祉基金へ

百瀬太郎様 笠原文喜様  
小口敏勝様 中村正二様  
水野美智子様 笠原忠雄様  
清水洋佑様 原孝好様  
竹内栄子様 花岡睦雄様  
チーム「花笠」様

### ●ボランティアセンターへ

・使用済み切手 宮澤春美様  
・濱利忠様 岡野薬品様  
・ツカサ工業様 (株)マルニシ様  
・ソーデナガノ様  
・駒沢地区社会福祉協議会様  
・匿名4名様  
・使用済みプリペイドカード  
・駒沢地区社会福祉協議会様  
・書損じハガキ  
・宮澤春美様  
・駒沢地区社会福祉協議会様  
・リハビリパンツ 匿名様  
・尿とりパッド 匿名様

## 福祉機器 リサイクル事業

ご家庭で不要になった福祉  
機器はございませんか？  
必要な方に仲介し、役立て  
ていただきます

差しあげます！  
No.12 介護用ベッド  
(手動)

連絡先  
岡谷市社会福祉協議会  
☎24-2121 ☎24-3555